
大山崎町総合計画策定のための
「住民意識調査」
報告書
(概要)

目次

1. 調査の趣旨・実施方法等	1
2. 住民意識調査の結果（概要）	2
3. 小学6年生・中学生向け調査の結果（概要）	9
4. 転入者調査の結果（概要）	12
5. 転出者調査の結果（概要）	15
6. 調査結果のまとめ	18

1. 調査の趣旨・実施方法等

(1) 調査の趣旨

大山崎町第4次総合計画・後期基本計画及び第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にあたっての基礎資料とするため、5種類のアンケート調査を実施しました。

(2) 実施方法等

調査の種類	調査の対象	調査方法	調査期間
①住民意識調査 (大山崎町在住18歳以上の方)	18歳以上の住民の中から無作為に抽出した1,500人 (住民基本台帳から無作為抽出)	郵送による調査票の配布・回収	令和元年12月18日 ～令和2年1月4日
②大山崎町職員向け調査 (大山崎町役場職員)	大山崎町役場職員 200人	直接調査票を配布・回収	令和元年12月18日 ～令和元年12月27日
③小学6年生・中学生向け調査 (大山崎町小中学生)	大山崎町小中学生 621人	小中学校を通じて配布・回収	令和元年12月5日 ～令和元年12月20日
④転入者調査 (大山崎町へ転入された方へのアンケート調査)	過去3年間の間に大山崎町へ転入した住民500人	郵送による調査票の配布・回収	令和元年12月18日 ～令和2年1月4日
⑤転出者調査 (大山崎町から転出された方へのアンケート調査)	過去3年間の間に大山崎町から転出した住民500人	郵送による調査票の配布・回収	令和元年12月18日 ～令和2年1月4日

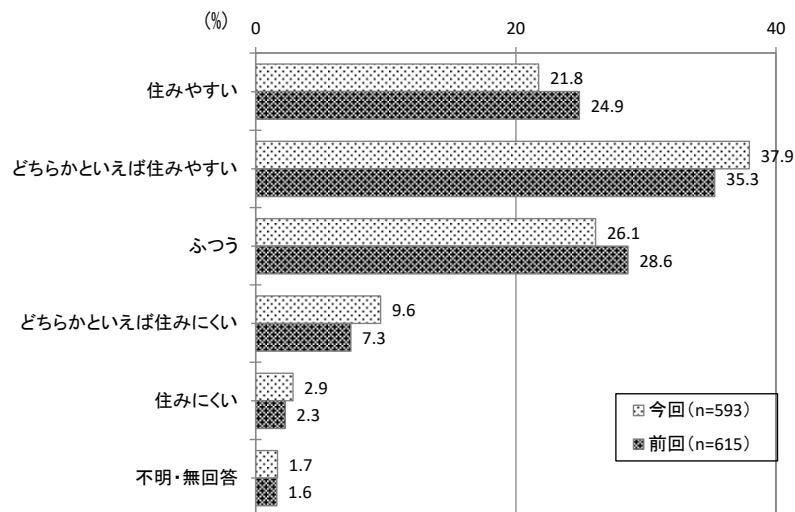
(3) 回収結果

調査名	配布数 A	有効回答数 B	回収率 B/A
住民意識調査	1,500	593	39.5%
大山崎町職員向け調査	200	92	46.0%
小学6年生・中学生向け調査	621	573	92.2%
転入者調査	500	123	24.6%
転出者	500	109	21.8%

2. 住民意識調査の結果（概要）

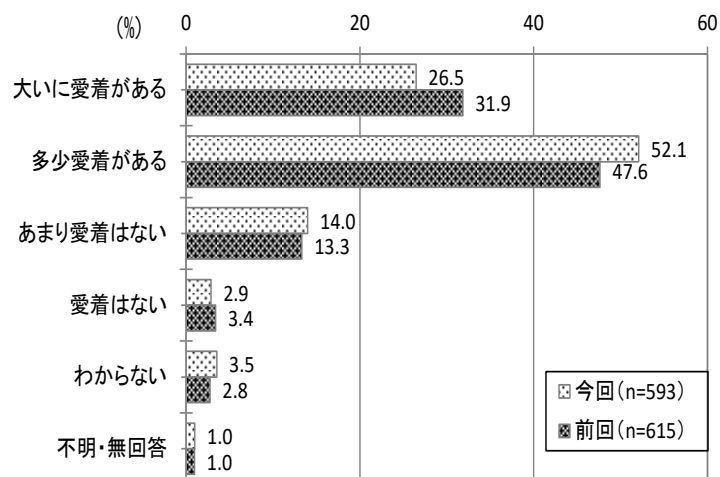
（1）大山崎町の住みやすさ

「どちらかといえば住みやすい」の回答については、前回、今回とも最も多くなっており、「住みやすい」については前回が多くなっています。「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると“住みやすい”は今回 59.7%、前回 60.2%となっています。



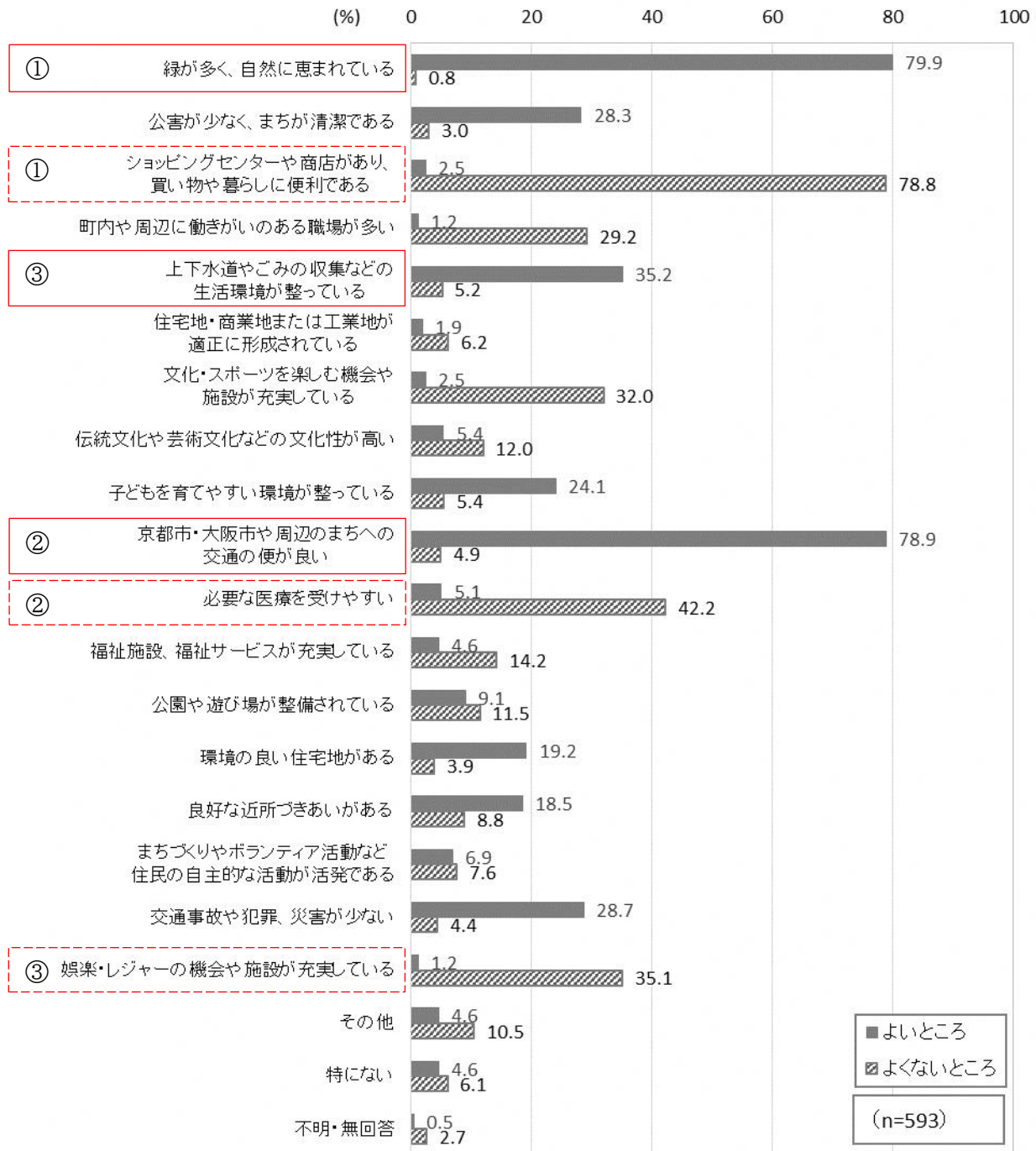
（2）大山崎町での暮らしの愛着

「多少愛着がある」については、今回が多くなっており、「大いに愛着がある」については、前回が多く、「大いに愛着がある」と「多少愛着がある」を合わせると、今回 78.6%、前回 79.5%となっており、前回同様およそ 8 割の人が“愛着がある”と答えています。



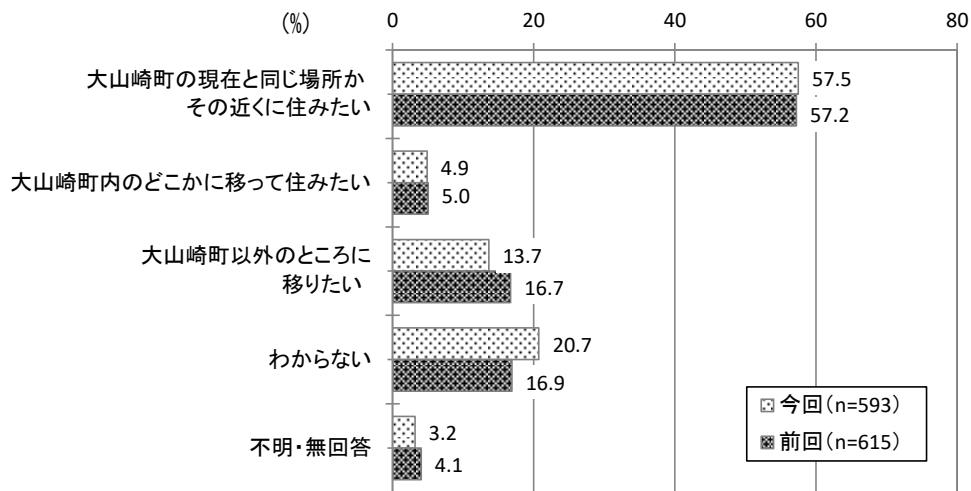
(3) 大山崎町の「魅力・よいところ」と「よくないところ」

本町の「魅力・よいところ」は、「緑が多く、自然に恵まれている」が79.9%、次いで「京都市・大阪市や周辺のまちへの交通の便が良い」が78.9%、「上下水道やごみの収集などの生活環境が整っている」が35.2%という評価となっています。一方、「よくないところ」は「ショッピングセンターや商店が少なく、買い物や暮らしに不便である」が78.8%、次いで「必要な医療が受けにくい」が42.2%、前回は33.2%、「娯楽・レジャーの機会や施設が充実していない」が35.1%となっています。



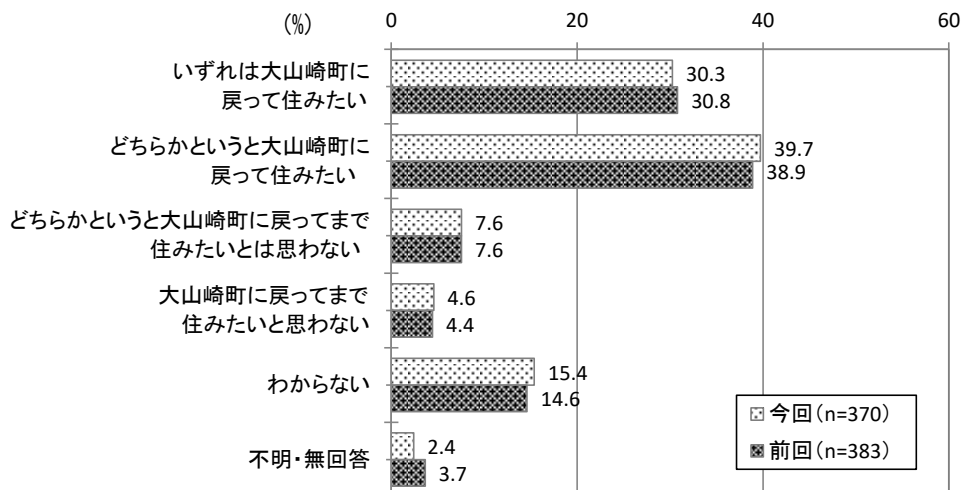
(4) 定住意向

最も多かった「大山崎町の現在と同じ場所かその近くに住みたい」については、今回が57.5%、前回は57.2%、「大山崎町内のどこかに移って住みたい」では今回が4.9%、前回は5.0%となっており、合わせると6割以上の人が大山崎町内に住み続けたいと答えています。



(5) Uターン意向

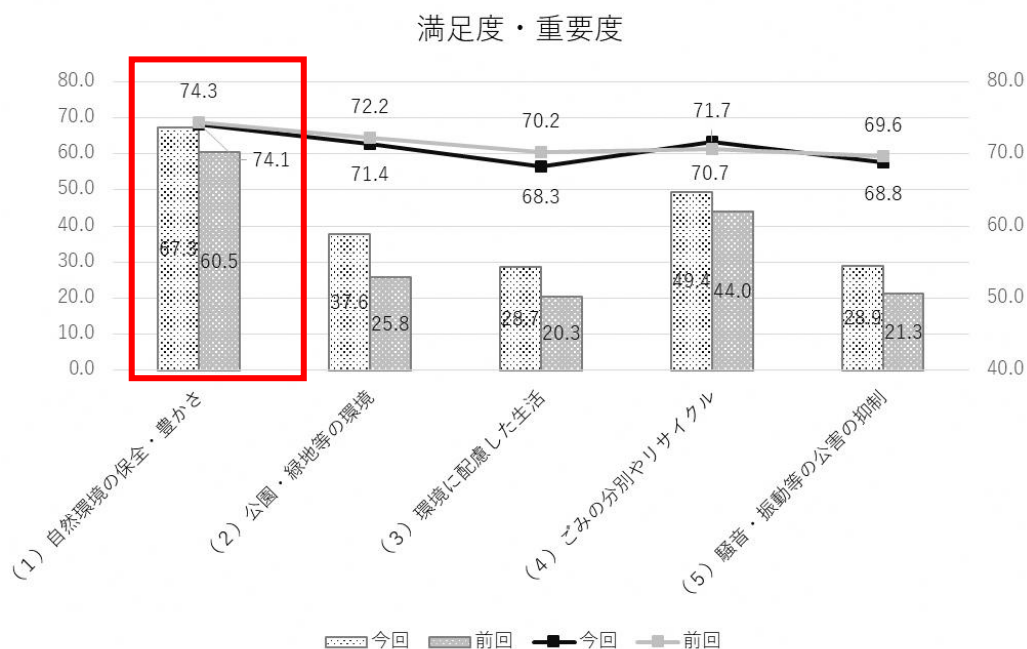
最も多かった「どちらかという大山崎町に戻って住みたい」と「いずれは大山崎町に戻って住みたい」を合わせると、今回は70.0%、前回は69.7%となっており、前回同様約7割の人が大山崎町に戻って住みたいと答えています。



(6) まちづくりの分野別評価 ※棒グラフは満足度、折れ線グラフは重要度の推移を表しています。(以下同様)

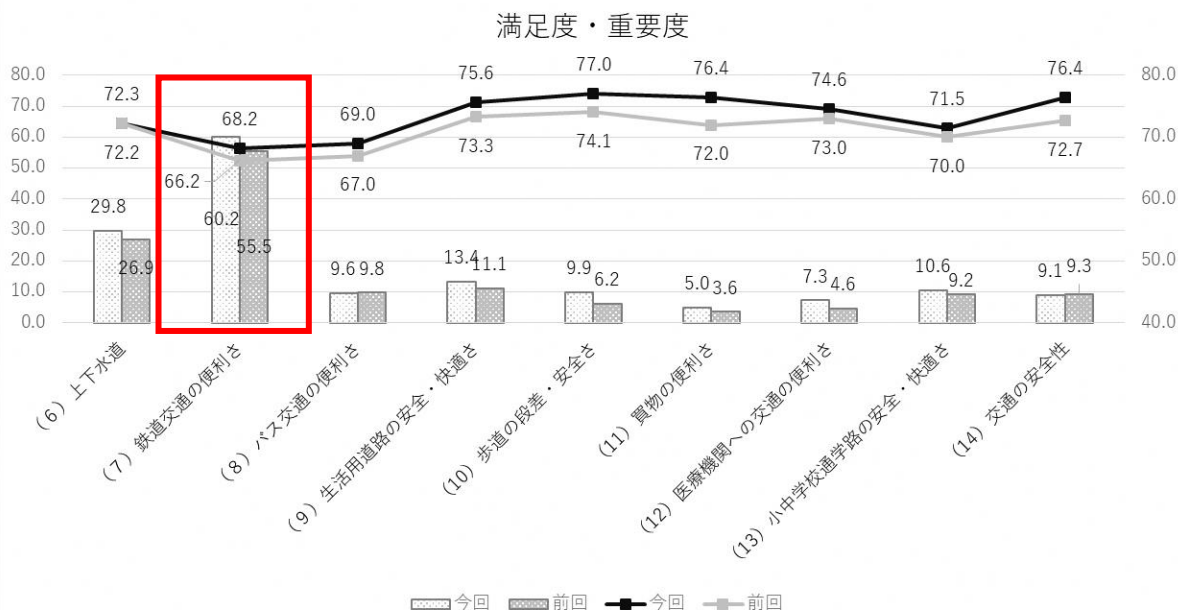
①自然・環境分野

自然・環境分野の満足度を見ると、すべての項目で、前回結果よりも高い評価となっており、「(1) 自然環境の保全・豊かさ」が前回同様、特筆して高くなっています。今後の重要度については、どの項目においても約7割の人が重要であると感じています。



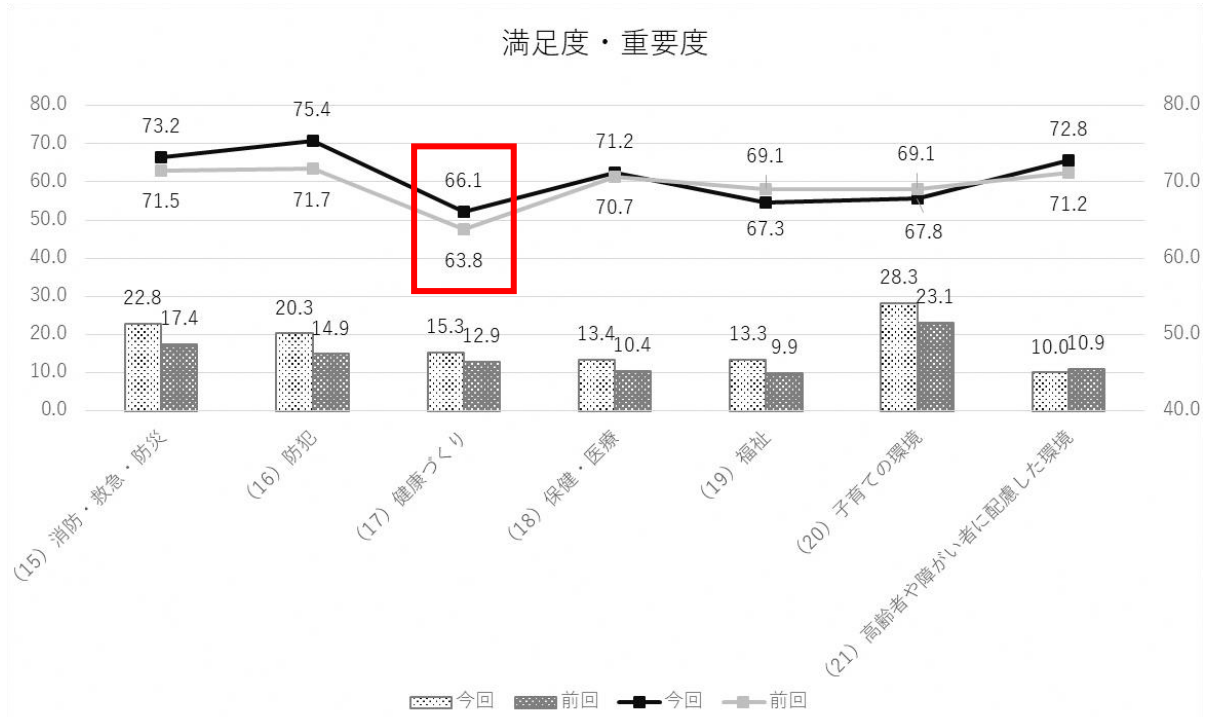
②産業・都市基盤分野

産業・都市基盤分野の満足度を見ると、前回とほぼ変わらない結果となっており、「(7) 鉄道交通の便利さ」が前回同様、特筆して高くなっていますが、①自然環境分野と比較すると、満足度は非常に低い結果となっています。今後の重要度は、すべての項目で前回よりも高い結果となっており、若干の差はあるものの、約7割の人が重要だと感じています。



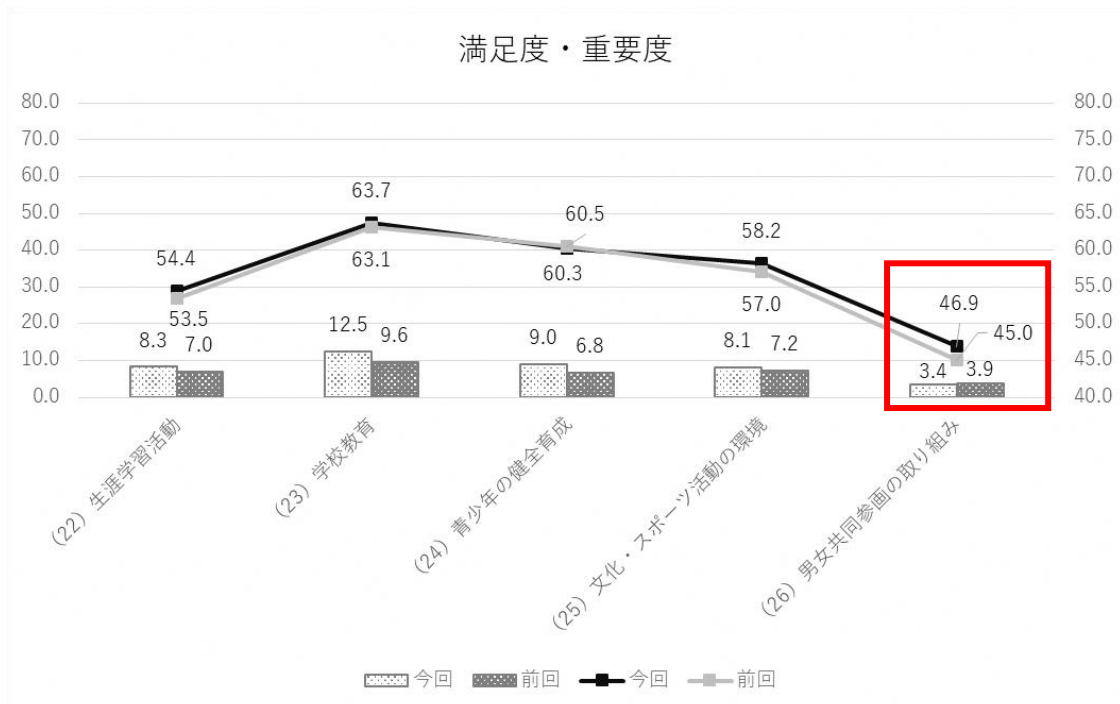
③防災・健康・福祉分野

防災・健康・福祉分野を見ると、満足度は前回結果からはやや増加しているものの、すべての項目で15%前後にとどまっています。今後の重要度は、ほぼすべての項目で約7割の人が重要だと感じていますが、「(17) 健康づくり」について若干の落ち込みが見られます。



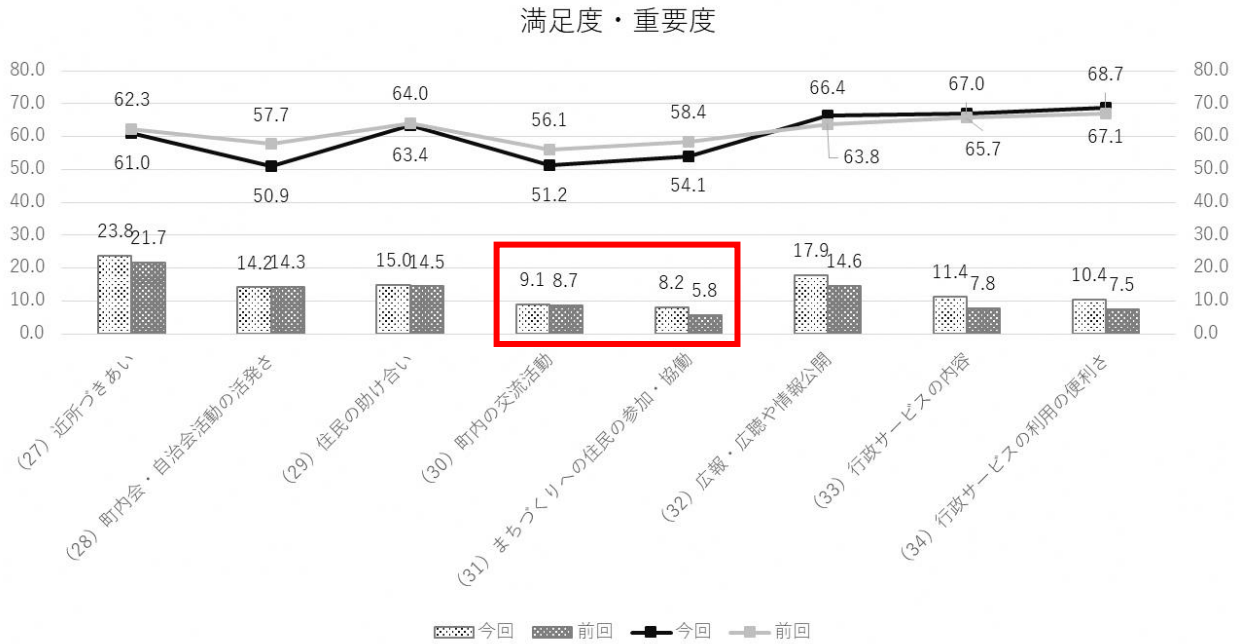
④教育・生涯学習分野

教育・生涯学習分野を見ると、満足度は前回結果からはやや増加しているものの、すべての項目で10%程度にとどまっています。特に、「(26) 男女共同参画の取り組み」については3%程度の満足度となっており、全項目の中でも特に低い結果となっています。今後の重要度についても、すべての項目で65%以下となっており、分野別に見ても、特に低い結果となっています。



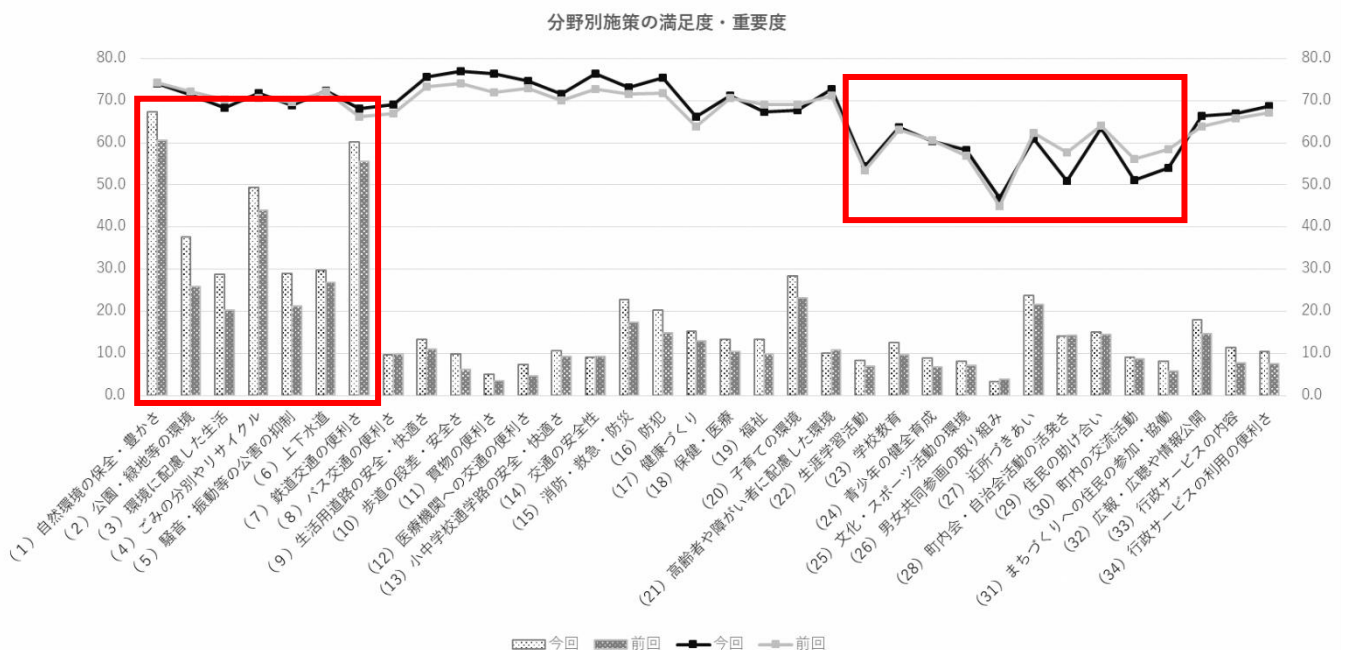
⑤まちづくりの進め方分野

まちづくりの進め方分野を見ると、満足度はほぼすべての項目で前回結果からやや増加しているものの、15%程度にとどまっています。特に、「(30) 町内の交流活動」、「(31) まちづくりへの住民の参加・協働」の満足度は10%以下になっており、全項目の中でも特に低い結果となっています。今後の重要度は、すべての項目で50~60%台となっており、分野別に見ても、やや低い結果となっています。



⑥すべての評価 (まとめ)

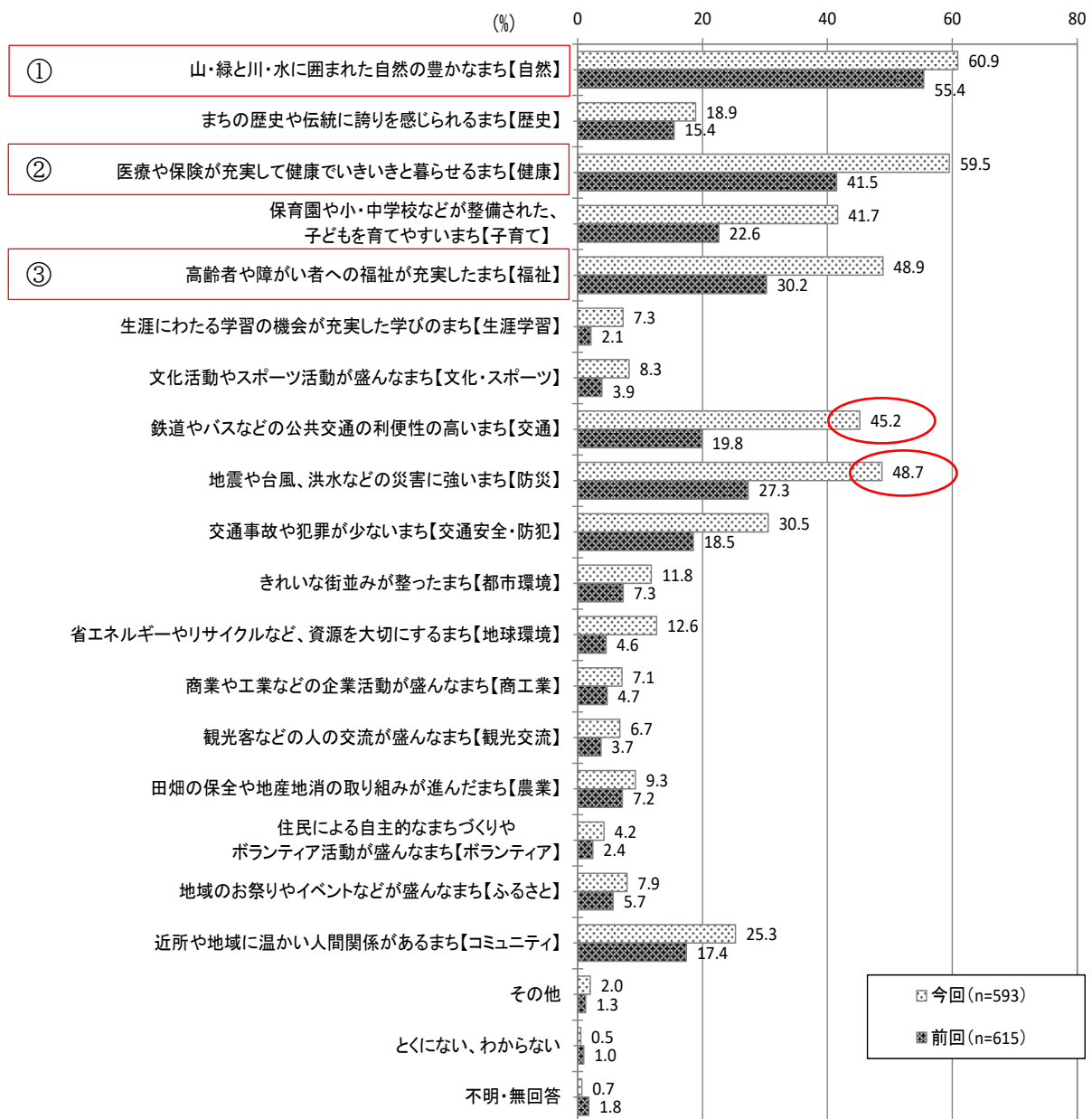
全項目を見ると、満足度・重要度それぞれについて比較できます。(1)～(7)は比較的高い評価となっており、(22)～(31)は比較的重要度が低いと感じていることが分かります。



(7) 2025年の大山崎町の将来像

約5年後の将来展望として、「山・緑と川・水に囲まれた自然の豊かなまち【自然】」や「医療や保健が充実し健康で暮らせるまち【健康】」、「高齢者や障がい者への福祉が充実したまち【福祉】」などが前回と同様多くなっています。

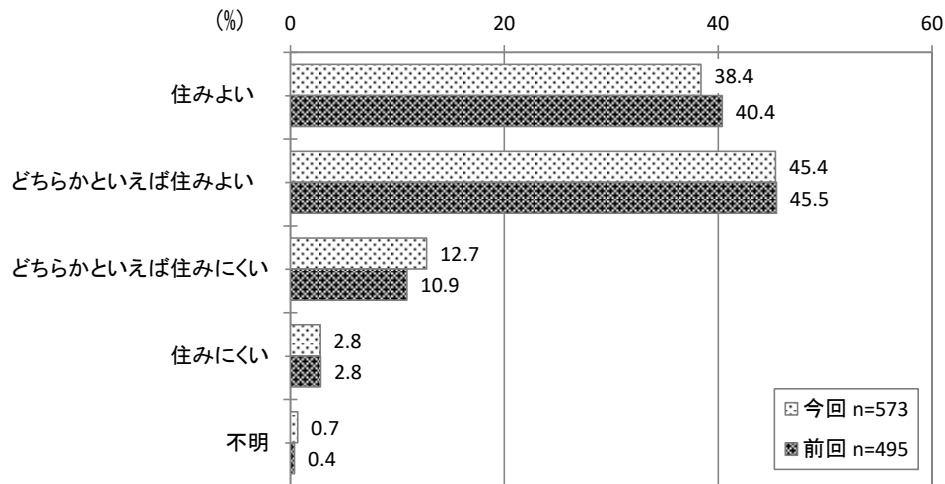
前回結果と比べ、今回特に「鉄道やバスなどの公共交通の利便性の高いまち【交通】」と「地震や台風、洪水などの災害に強いまち【防災】」の2項目についての回答が多くなっています。



3. 小学6年生・中学生向け調査の結果（概要）

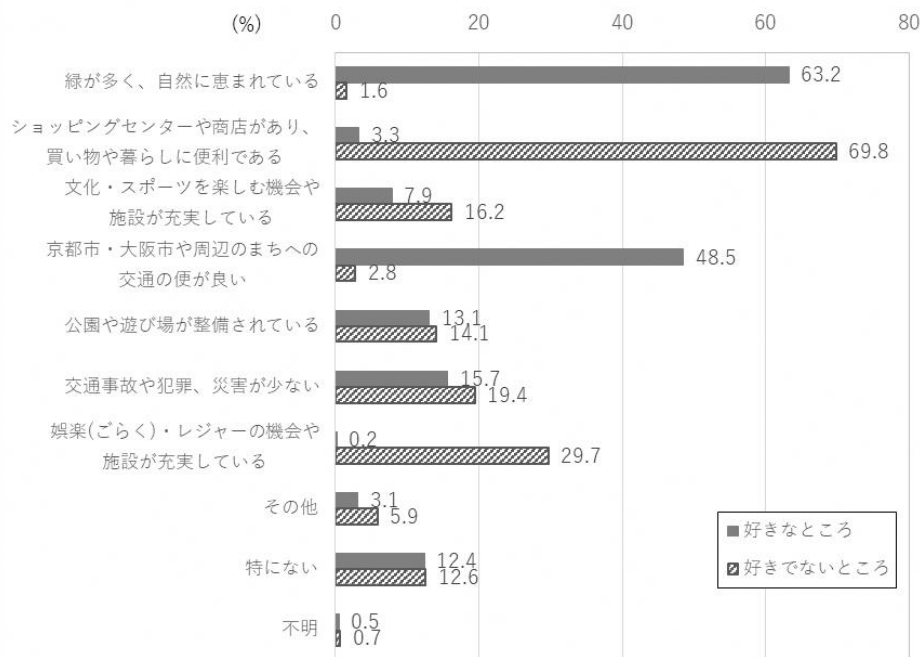
(1) 大山崎町の住みやすさ

「どちらかといえば住みよい」が今回 45.4%、(前回 45.5%) と最も多く、次に多かった「住みよい」と合わせると、83.8% (前回 85.9%) の児童・生徒が住みやすいと答えています。



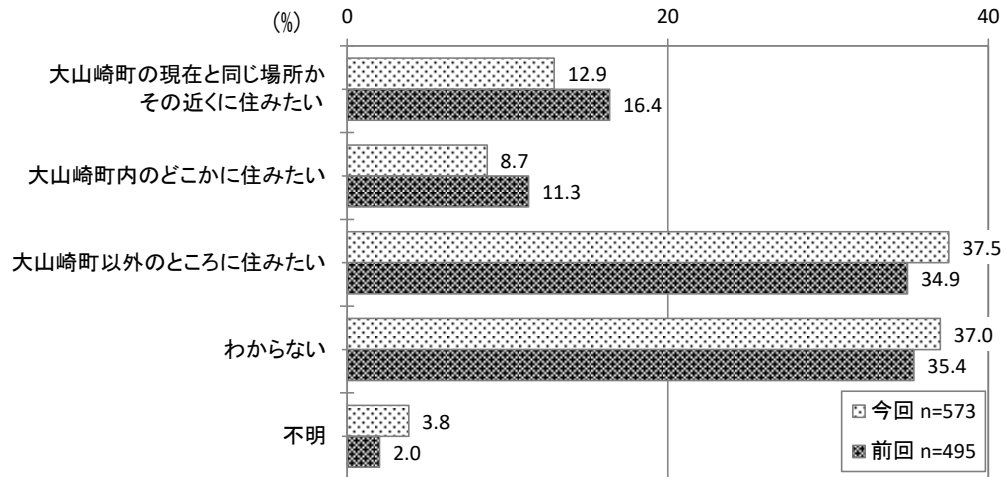
(2) 大山崎町の「好きなところ」と「好きでないところ」

「好きなところ」としては、「緑が多く、自然に恵まれている」が 63.2%、次いで「京都市、大阪市や周辺のまちへの交通の便が良い」が 48.5%となっています。一方、「好きでないところ」としては、「ショッピングセンターや商店が少なく、買い物や暮らしに不便である」が 69.8%、「娯楽（ごらく）・レジャーの機会や施設が充実していない」が 29.7%と多くなっています。



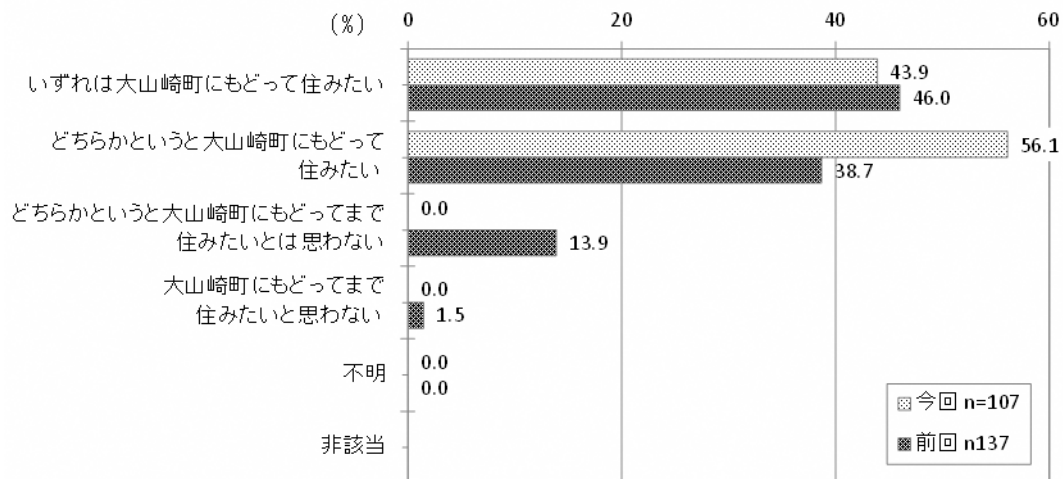
(3) 定住意向

「大山崎町以外のところに住みたい」が37.5%（前回34.9%）、「わからない」が37.0%（前回35.4%）と今回、前回とも多くなっており、「大山崎町の現在と同じ場所かその近くに住みたい」と「大山崎町のどこかに住みたい」を合わせた21.6%（前回27.7%）よりも多くなっています。



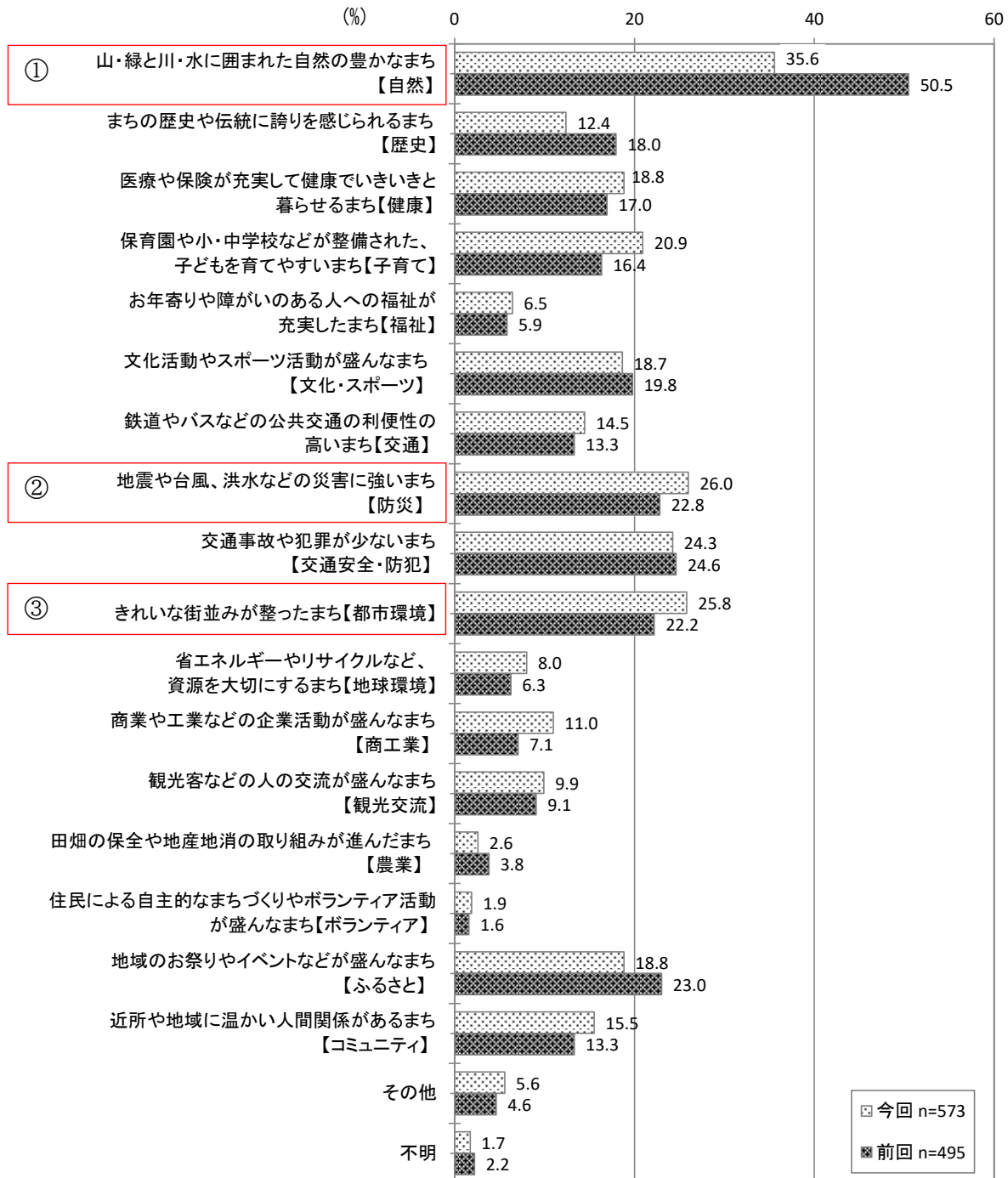
(4) Uターン意向

「どちらかという大山崎町にもどって住みたい」が56.1%（前回38.7%）と今回が上回っており、「いずれは大山崎町にもどって住みたい」が43.9%（前回46.0%）となっています。合わせると100%（84.7%）の児童・生徒が大山崎町にもどって住みたいと答えています。



(5) 2025年の大山崎町の将来像

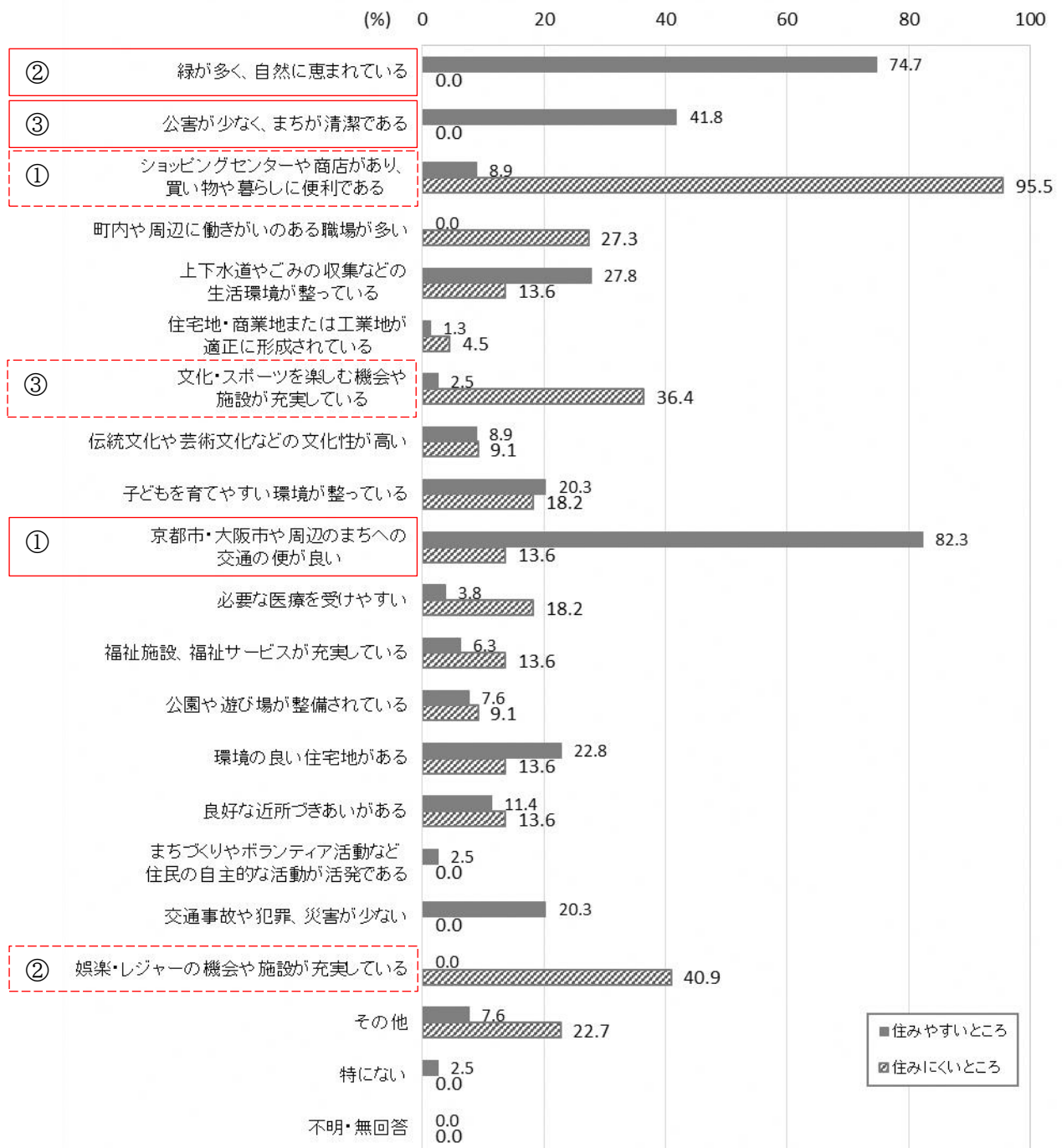
約5年後の大山崎町の将来展望として、「山・緑と川・水に囲まれた自然の豊かなまち【自然】」や、「地震や台風、洪水などの災害に強いまち【防災】」、「きれいな街並みが整ったまち【都市環境】」、「保育園や小・中学校などが整備された、子どもを育てやすいまち【子育て】」などが多くなっています。



4. 転入者調査の結果（概要）

（1）大山崎町の「住みやすいところ」と「住みにくいところ」

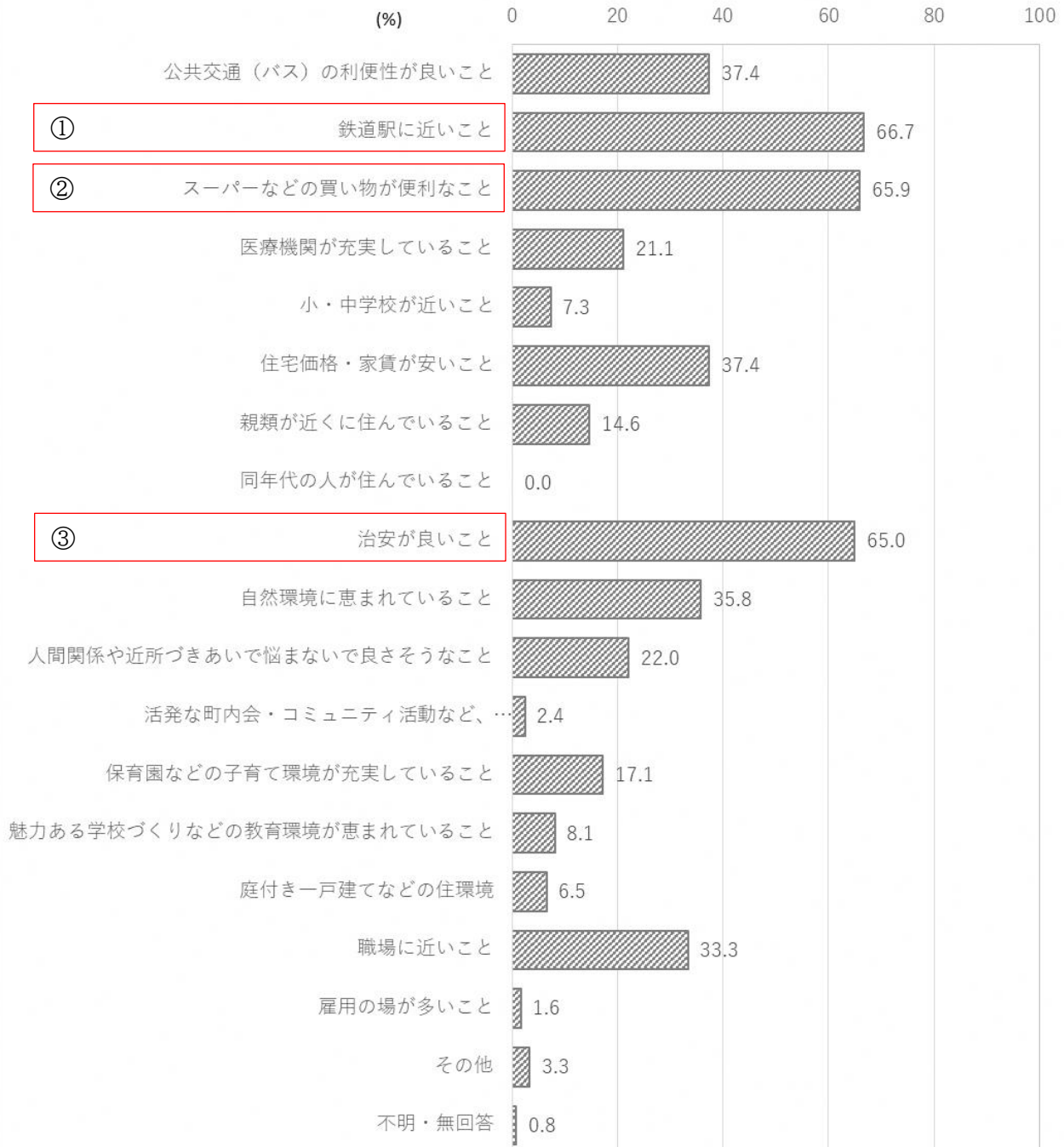
本町の「住みやすいところ」は、「京都市・大阪市や周辺のまちへの交通の便が良い」が82.3%、次いで「緑が多く、自然に恵まれている」が74.7%、「公害が少なく、まちが清潔である」が41.8%となっています。一方で、「住みにくいところ」は「ショッピングセンターや商店が少なく、買い物や暮らしに不便である」が95.5%、次いで「娯楽・レジャーの機会や施設が充実していない」が40.9%、「文化・スポーツを楽しむ機会や施設が充実していない」が36.4%となっています。



(2) 住む場所を選ぶときに重視すること

住む場所を選ぶときに重視することとしては、「鉄道駅に近いこと」が66.7%、次いで「スーパーなど買い物が便利なこと」が65.9%、「治安が良いこと」が65.0%となっています。

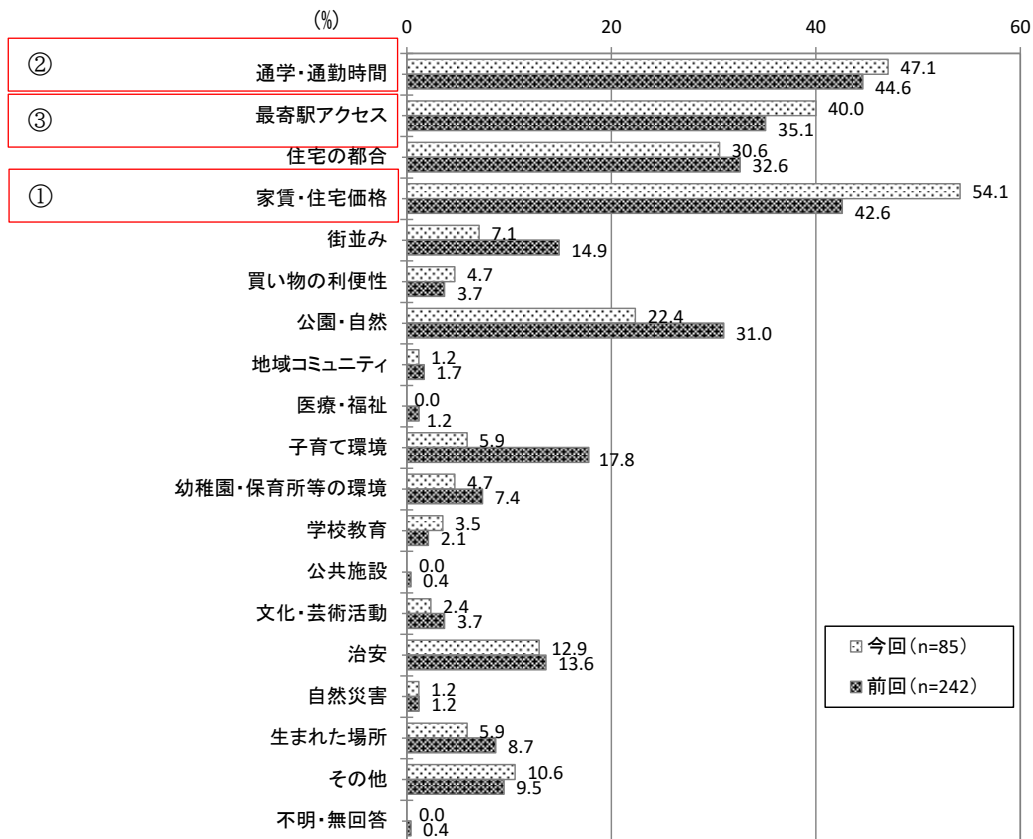
これを見ると、「利便性」と「安心・安全」が重視されていることが分かります。



(3) 転入先を大山崎町に決めた理由

「家賃・住宅価格」が54.1%と最も多く、次いで「通学・通勤時間」が47.1%、「最寄駅アクセス」が40.0%となっています。

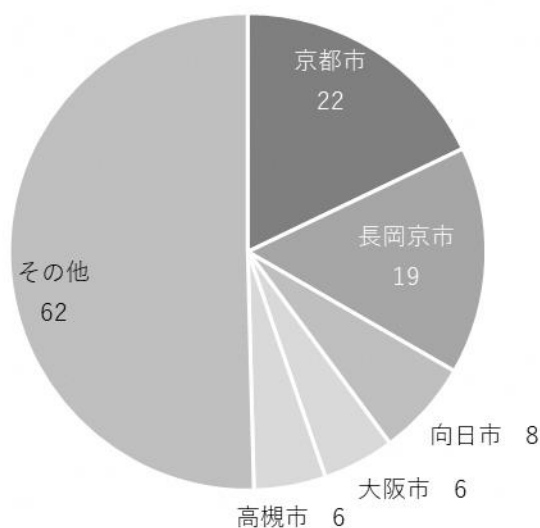
これを見ると、家賃・住宅価格については、他市町村と比べても本町の強みであると言えます。



(4) 転入前の住まい

転入前の住まいの上位5つを見ると、京都市が22人、長岡京市が19人、向日市が8人、大阪市、高槻市がそれぞれ6人となっています。

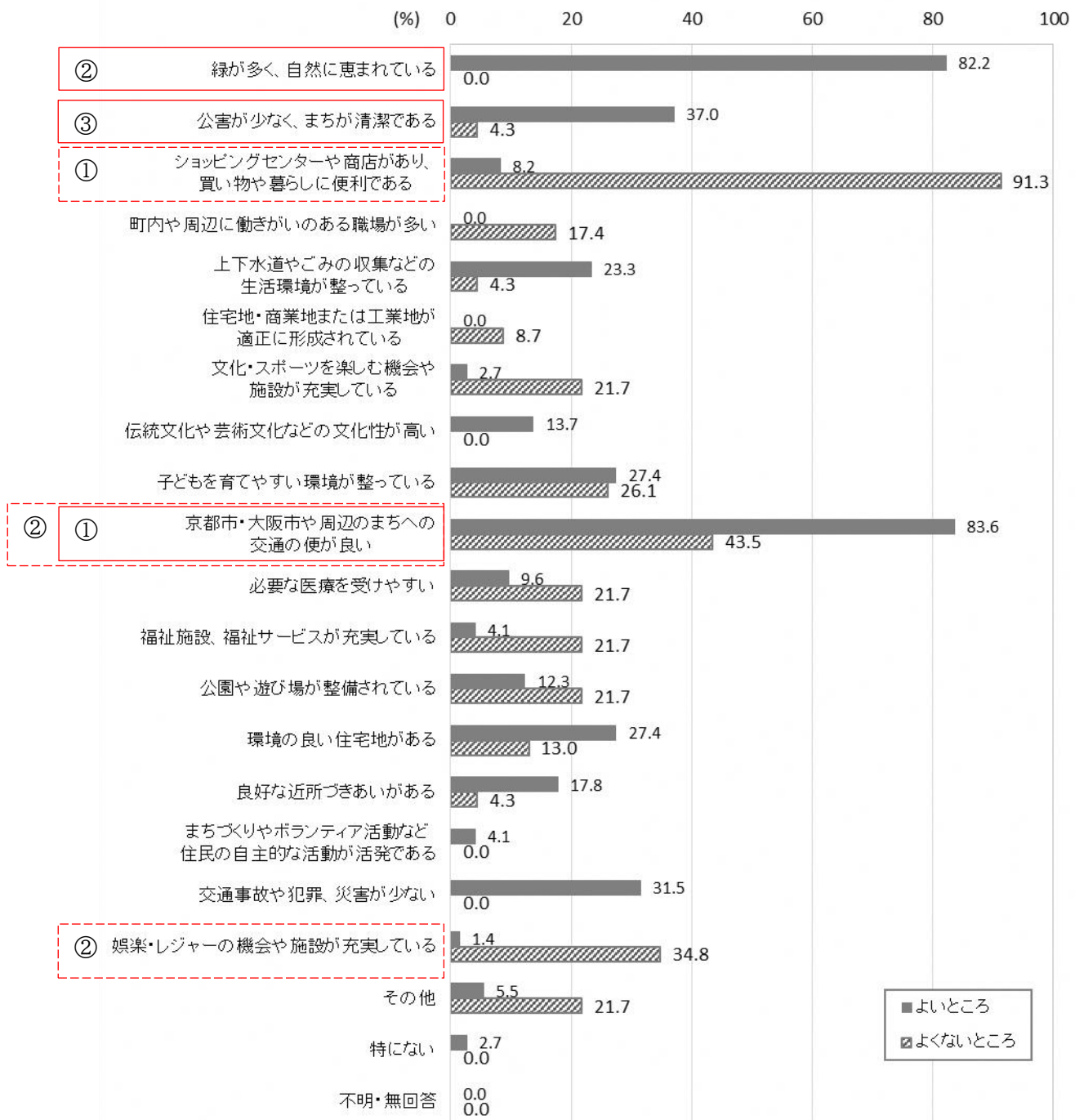
これを見ると、関西圏、特に隣接する地域からの転入者が多いことが分かります。



5. 転出者調査の結果（概要）

（1）大山崎町の「住みやすいところ」と「住みにくいところ」

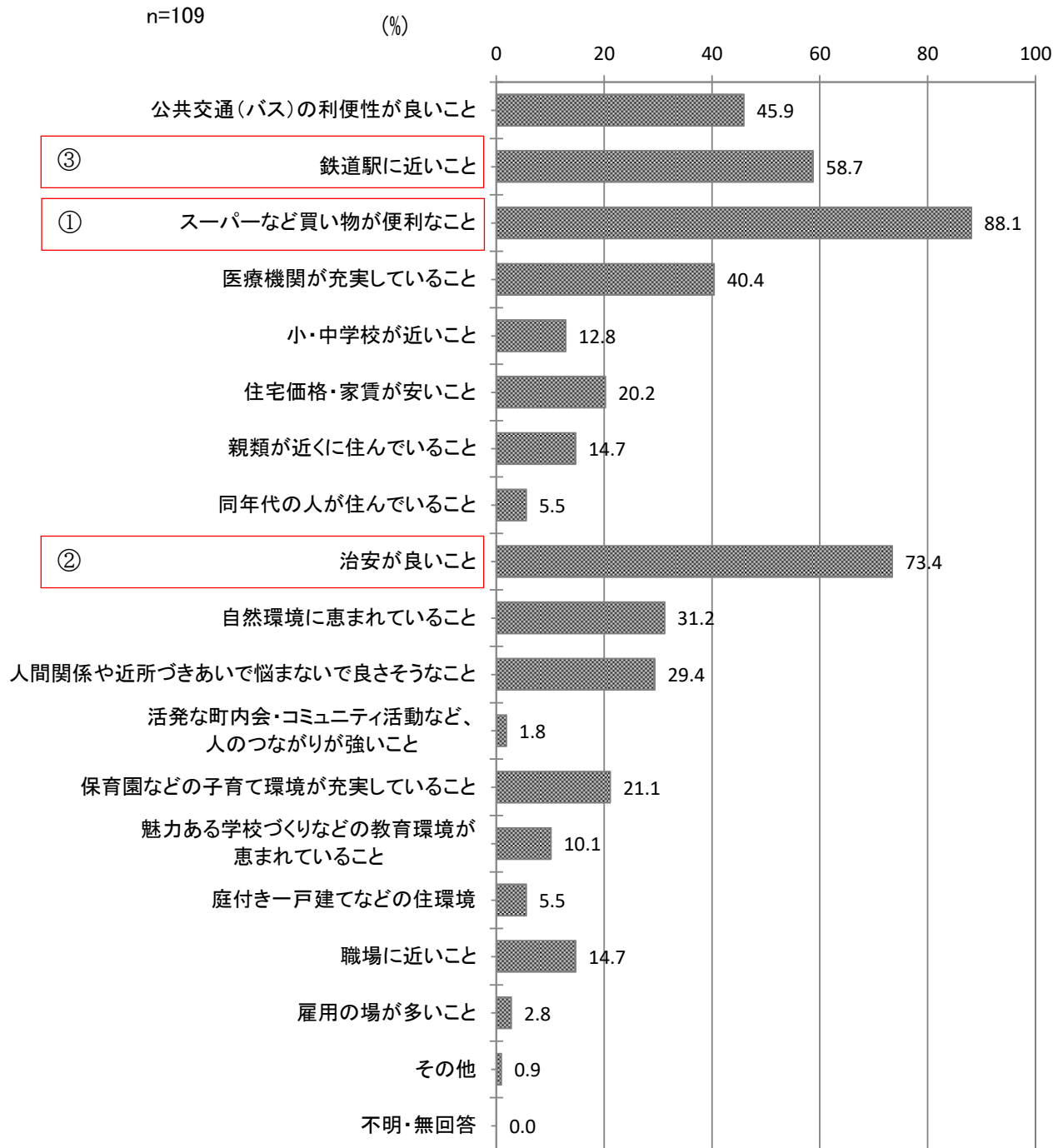
本町の「住みやすいところ」は、「京都市・大阪市や周辺のまちへの交通の便が良い」が83.6%で最も多く、次いで「緑が多く、自然に恵まれている」が82.2%、「公害が少なく、まちが清潔である」が37.0%となっています。一方で、「住みにくいところ」については、「ショッピングセンターや商店が少なく、買い物や暮らしに不便である」が91.3%で最も多く、次いで「京都市・大阪市や周辺のまちへの交通の便がわるい」が43.5%、「娯楽・レジャーの機会や施設が充実していない」が34.8%となっています。



(2) 住む場所を選ぶときに重視すること

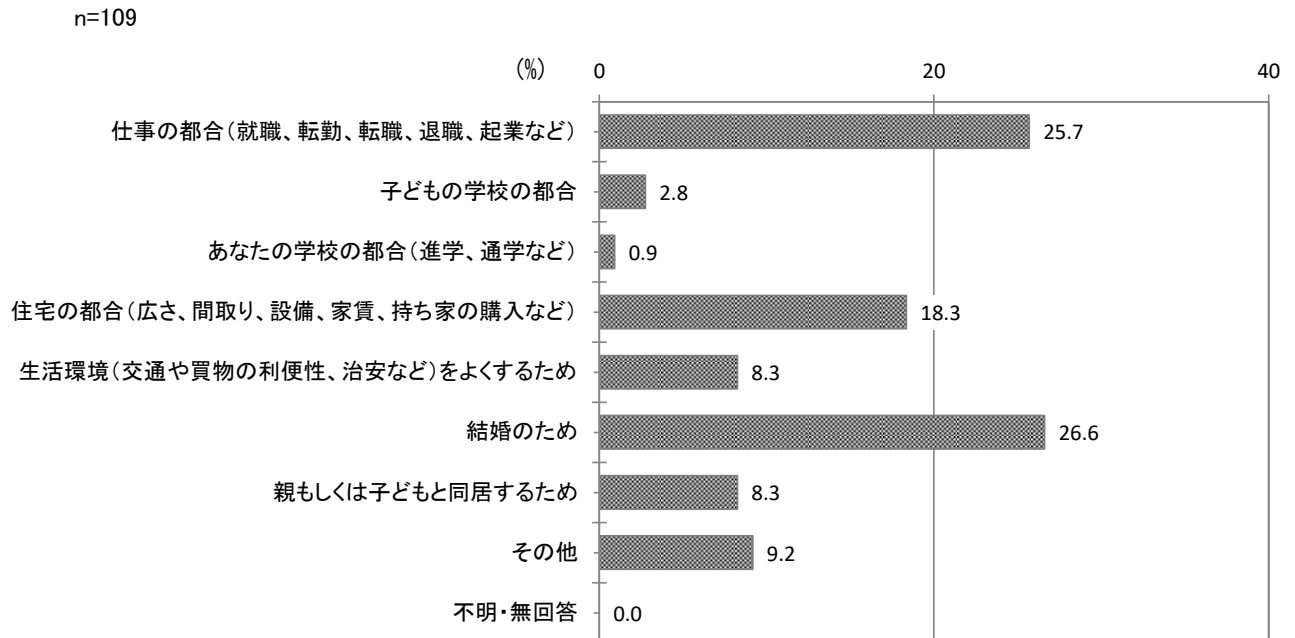
住む場所を選ぶときに重視することは、「スーパーなど買い物が便利なこと」が88.1%で最も多く、次いで「治安が良いこと」が73.4%、「鉄道駅に近いこと」が58.7%となっています。

身近な場所にスーパーや商店があるかどうか住む場所を決めるときには重要であり、転入増加や転出抑制のための施策を検討する際の大きなポイントになると考えられます。



(3) 転出するきっかけ

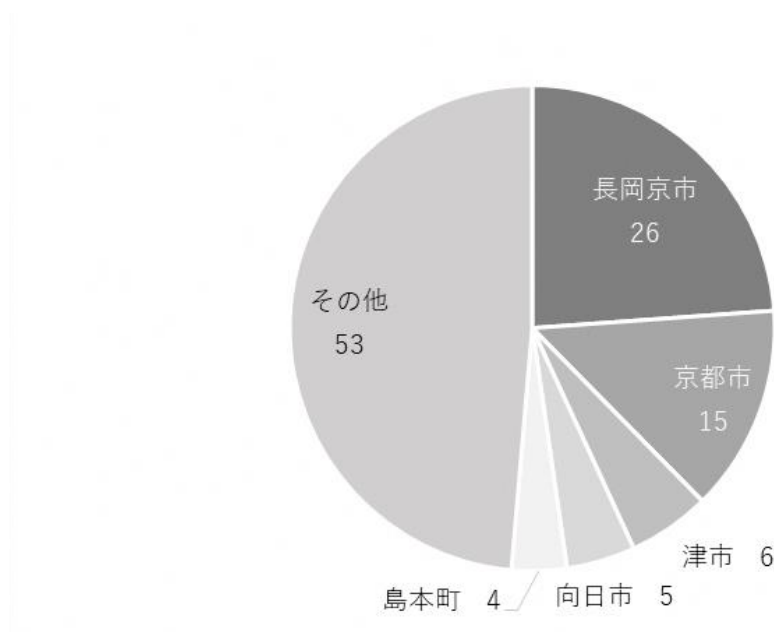
住まいについては、「結婚のため」が26.6%で最も多く、次いで「仕事の都合（就職、転勤、転職、退職、起業など）」が25.7%、「住宅の都合（広さ、間取り、設備、家賃、持ち家の購入など）」が18.3%の結果でした。



(4) 転出後の住まい

転出後の住まいの上位5つを見ると、長岡京市が26人、京都市が19人、津市が6人、向日市が5人、島本町が4人6人となっています。

これを見ると、転入前の住まいの結果と同様に関西圏、特に隣接する地域への転出者が多いことが分かります。



6. 調査結果のまとめ

(1) 大山崎町の「魅力（強み）」と「課題（弱み）」

今回の住民意識調査結果から、本町の大きな魅力と課題は以下のように考えられます。

魅力（強み）	課題（弱み）
<ul style="list-style-type: none">●自然環境・自然の豊かさ●都市部へのアクセスの良さ●治安の良さ●まちの清潔さ など	<ul style="list-style-type: none">●買い物の不便さ●娯楽施設等の少なさ●医療施設や医療環境の整備●商業地・工業地・職場の少なさ など

①魅力（強み）

住民、小学6年生・中学生、転入者、転出者のすべての調査において、「緑が多く、自然に恵まれている」ことが高い評価を受けており、また住民、小学6年生・中学生の調査においては、本町に望む将来像として、「山・緑と川・水に囲まれた自然の豊かなまち【自然】」が1位となっています。

「京都市・大阪市や周辺のまちへの交通の便が良い」については、転出者調査では評価が分かれています。住民、転入者調査においてはそれぞれ2位、1位と高い評価となっています。

②課題（弱み）

住民、小学6年生・中学生、転入者、転出者のすべての調査において、「ショッピングセンターや商店が少なく、買い物や暮らしに不便である」ことが指摘されており、転入者、転出者調査では「住む場所を選ぶときに重視すること」として「スーパーなど買い物が便利なこと」がそれぞれ1位、2位となっています。

「娯楽・レジャーの機会や施設が充実していない」についても住民、小学6年生・中学生、転入者、転出者のすべての調査において本町の「よくないところ」や「住みにくいところ」として上位にあげられています。

(2) 今後の施策の展開に向けて

少子高齢化・人口減少が加速するわが国において、訪れる場所、住む場所として本町を選んでもらうためには、「課題（弱み）」の克服も必要ですが、「魅力（強み）」である部分を伸ばしていくことが重要であり、求められていると考えられます。

どの調査においても、前回の調査結果からの大幅な変化は見られませんでした。こうした住民の意識や意見を把握し、まちづくりや町政運営に反映していくことが、重要になります。

